

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200376		
法人名	社会福祉法人光志福祉会		
事業所名	ネムの木グループホーム丸亀		
所在地	香川県丸亀市川西町南甲220-1		
自己評価作成日	令和6年2月4日	評価結果市町受理日	令和6年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人として、GHの運営が3施設めであり、丸亀市において、老人ホームの運営を長らく継続していることもあり、地域に根差した地域密着型施設として、開設をしました。認知症の方を受け入れるにあたり、くもん学習療法を導入し、その方の想いを汲み取ることでできる職員を育成し、その方らしい生活が継続できるよう、運営をしております。地域密着型施設としても、ウッドデッキや施設内の小公園を使って、近隣の方との交流ができるよう、進めております。施設内は、木造平屋となっており、ご利用者の穏やかな笑い声が聞こえる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

2022年12月に開設した事業所である。駐車場を隔てて有料老人ホームやデイサービスがあるため、既に地元の住民に認知されている。職員は開設から同じ顔ぶれで、介護経験のある、明るい性格の方が多い。職員は利用者一人ひとりのお世話や会話を楽しみ、ゆったりした時間を共に過ごされている。利用者もここでの生活に馴染み、表情は穏やかである。地域は防災活動が盛んで、協力体制も出来ている。事業所では、ペーパーレス化、事務の省力化等が機能しており、パソコンでの法人の合同会議への参加や研修の実施、タブレット端末での個人記録管理など、業務の合理化も進んでいる

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和6年2月8日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針、部署方針を毎日朝礼時に復唱している。職員は年に1回、理念研修を実施。また、理念を実現するために、年間・半期ごとの職員と一緒に目標設定を行い、毎月面談を実施することで、職員の意識を統一を図っている	毎日の朝礼で管理者、職員全員で法人理念、行動方針、部署方針が復唱されている。また、理念を実現するための方針等はの実践状況も定期的に振り返りが行われている。職員には個人目標も設けられ毎月面談も行われている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を招く、丸亀拠点として開催していた夏祭りは、感染対策の観点から、実施が出来なかったが、ウッドデッキを使ったカフェの開催を予定しており、地域の方々と交流できる場としたい	感染対策により地域住民とのイベント交流は進んでいないが、住民が気軽に立ち寄り気軽に何でも話し合える居場所として事業所の利用は計画されている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、地域の自治会長、民営委員、丸亀市の担当者に出席をしてもらい、意見や助言をもらっている。施設内で、感染等があった場合は、同法人内の別建物を利用して実施できている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事・事故報告・研修報告など運営に関わる内容について、報告を行い、地域の方々の意見をもらい、今後の運営に生かしている	12月にオープンして、4月より運営推進会議を開催している。2地区の自治会長、民生委員、家族、利用者、市職員が参加している。事業所では議題を用意し、前回の振り返りも行われている。検討された内容は家族会や職員に周知されている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への毎回の参加していただき、意見交換をしている。また、不明な点については、直接連絡をとり、助言をもらっている	市の職員が運営推進会議に参加して、事業所が出来ることなどアドバイスもなされている。また、行政のネットワークを利用して、情報も集められている。また、日頃から直接会っての相談や、電話など連携体制が構築されている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、マニュアルの作成・定期的な委員会の開催をしている。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。玄関の施錠は、安全上行なっている。当年において疑義はみられていない	研修は年間事業計画に基づき年2回実施されている。虐待防止・身体拘束対策委員会の開催、マニュアルの見直しも定期的に行われている。玄関は、駐車場、道路と面しており、安全上の判断から施錠されている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。当年において疑義は見られていない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	豊浜拠点において、成年後見制度を利用されるご利用者があり、進め方や内容などを情報共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明をし、理解・納得していただいた上で、同意を得ている。改定あった場合には、その都度文章を用いて説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との情報共有を密に行い、普段から意見、要望を聞く機会を持つようにしている。頂いた意見、要望については、委員会や部門別会議等に反映させている。各会議での決定事項は、議事録を回覧して職員間で共有している	玄関には意見箱が置かれ、家族等との連絡も密に心掛けられている。面会時や家族会、運営推進会議などの機会にも、意見や要望が聞かれている。意見や要望は会議に取り上げ、検討がなされている。決まったことは家族や職員に周知されている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月上長との面談を実施しており、問題点も含めて情報の共有をしている。運営に関する意見についても、面談時に集約している	管理者は毎月職員と面談を行い、安心して働ける環境整備に努められている。なんでも相談を受け、話しやすい雰囲気づくりが心掛けられている。朝のミーティング、ユニット会議、法人合同の研修を通じて個々の意欲、資質の向上にも努められている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間目標・半期ごとの目標設定は、職員ごとに設定し、毎月の個人面談にて、個々の業務を把握。その内容で、評価を行い、昇給・賞与に反映させている。また、年に1回、表彰制度を設けるなど、賞賛される場面を大切にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や資格取得の支援を行っている。法人の基準書に対する研修があり、ケアの統一を図れるように取り組んでいる。新人は、プリセプターを設定し、3カ月～6カ月で一人立ちできるよう、O-JTとOFF-JTを進めている。また、関わりビデオを実施し、自分の介助方法を映像で残し、確認することで、気付きも増え、他職員の良いところを取り入れるなど、職員の意識向上をすることができている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会にはまだ加入は出来ていないが、法人内でのGH連絡会を開催し、他拠点との情報共有を実施している。くもん学習療法センターによる、活動事例発表会に参加し、他事業所との交流で、意見交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行ない、ご本人との良好な関係づくりから始めている。現状を把握しつつ、ご本人の希望や考えをお聞きし、想いを汲み取る努力をしている。職員間で情報共有を行い、全員が、生活歴、習慣などを知っておくようにしている。その場しのぎにせず申し送りを徹底し統一している			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族との良好な関係づくりを行うように心がけている。ご家族からお話を伺う時間を十分にとり、ご家族の想いを汲み取る努力をしている。入居後はこまめに様子を電話等で伝達している。また、入居2週間後にプランを見直し、困りごとやサービス提供内容の改善を行っている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞いたうえで入居判定会議やカンファレンスを開催し、ご利用者に必要なサービスは何かを見極め、適切なサービスの提供ができるように努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が、互いに教え教わりながら家事や物づくりを行なう中で、家庭的な雰囲気を作ることができている。生活リハビリの観点から家事動作(洗濯・掃除・食事づくり)に積極的に参加して頂いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対面での面会が制限されている中で、できるだけ顔が見られるように、窓越しの面会や、電話での会話ができる機会を作るなどの工夫を行っている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談して出来る限り、実現できるようにしている。感染対策を十分におこなった上で、病院受診に出かけた際には、自宅のある地域を回るなどの工夫を行っている。ご家族からの電話や来所時の面会等、機会確保をすすめている	日頃から家族に電話連絡や手紙で、状況をお知らせするなどの支援が行われている。家族との面会は玄関先で行われている。感染症対策により、状況は変化するが、出来るだけ制限等は緩和の方向で進められている。家族の協力により外泊支援なども行われている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係性を把握し、ご利用者同士が良好なコミュニケーションが図れるように支援している。認知症や言語障害により他者との関りが困難な方は職員がこまめな声掛けを積極的に行い、また一対一で関わる事で信頼関係を構築し孤独感を感じさせないように努めて援助している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からお便りを頂くなど、交流を大切にしている。退居した後の様子を伺うために、施設から連絡を入れている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がその人らしく生活できるように、ご利用者の生活歴を把握し、職員間で情報共有できるようにしている。本人の意向を大切に、想いを汲み取る努力をしている	利用者の生活歴の聞き取りや、利用者の発する言葉やつぶやきを書き留めて、利用者の希望や意向の把握に努められている。くもん学習時に一対一対応になる機会も利用して、思いが聞き出されている。思いや希望などは計画に落とし込み、外出や行事に活かされている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞き、現在までの生活や暮らし方、家族の中や職場での役割など、これまでに歩んできた人生を知るように努めている。また、ものの好みや嗜好を把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがご自分のペースで過ごして頂けるように、ご利用者の現在の状態把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が自分の担当するご利用者のモニタリングを行っている。ケアカンファレンスを実施して意見交換しながら計画立案を行っている。ご家族とは面会時や電話連絡する機会を通じて情報の交換を行っている	職員には担当の利用者がおり、モニタリングは通常3か月ごとに行われている。月1回カンファレンスを行い、他の職員の意見やアイデアも参考になされている。計画は基本6か月に1回見直しされる。個人データはタブレット端末にて計画と実践が連携している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の入力や申し送りの実施により、日々の状態や情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせて、何が必要かその都度話し合いをしている。出来る限り個人に合わせた対応の実現に努めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の研修参加により得られた情報をご利用者やご家族に伝えることができる様に努力している。今後、カフェを定着させ、地域での認知症の窓口になることを丸亀市担当者からも期待をされている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医の利用を優先的に行なっている。協力病院での受診を希望する場合は、毎月の往診時に情報を共有し、適切に対応ができる様にしている	本人や家族の意向を優先してかかりつけ医が決められている。ほとんどの方が協力病院での受診を希望し、内科から月1回の訪問診療を受け、その他必要に応じ受診に行かれている。受診時には家族の付き添いもあるが、事業所から情報を提供して医療との連携が図られている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職種を超えて、報告・連絡・相談をして、適切な対応ができるように努めている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院との情報交換に努めている。退院時のカンファレンスには積極的に参加し、病院関係者との信頼関係を構築するように努めている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明している。又、実際にそのようなことになった場合はご利用者・ご家族の意志を尊重した対応をしている	入居時に重度化した場合の対応など説明がなされている。重度化により常時の医療提供が必要になると、原則入院か他の施設の紹介となる。看取りはしないと明文化されているようだが、利用者や家族と相談しながら、できる限り意向に沿った支援に努められている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、各職員が対応できるようにしている。急変時の対応については、実技を取り入れた研修を開催している			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、マニュアルの作成・災害時の避難訓練等をしている。県下一斉のシェイクアウト訓練にも参加した。丸亀拠点として、川西自主防災と協力した避難訓練も実施することができている	本部や他のエリアの事業所と協力して、防災委員会やマニュアルの検討がなされている。事業所の地域は防災訓練に熱心な地域で、地域住民の協力も得られている。敷地内に地域の防災用備品を保管する倉庫も設置されている	運営推進会議等を通じて、地域の方に避難訓練への参加を呼び掛けるなど、更に地域との協力関係を強力にして、より一層災害時に活動できる事業所の発展に期待します	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守るような言葉のかけ方、対応の仕方に十分注意している。個浴での入浴や排泄の確認等は他のご利用者に聞こえないよう配慮している	人権尊重やプライバシー保護の職員研修を行っている。介護経験者が多く、利用者一人ひとりの対応方法を心得ている様子が見られる		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と密にコミュニケーションを図り、日々の関わりの中で、ご自分の考えや想いを自由に表出できるように支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、ご利用者のペースで過ごしていただけるように支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、ご本人の好きなように自由にして頂いている。化粧をする方もいれば、カツラを使用している方もいる。入浴時には着替えの用意等、ご本人と一緒にしている。好きな服を選んでもらっている。居室から出る際に手鏡とブラシを渡し、身だしなみを整えて頂いている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る範囲で調理・盛り付け・後片づけを行っている。自力摂取が続けられるように食事形態の変更や、視野狭窄に対応するため器の配置に配慮を行っている	食材は地元の業者に発注されている。調理はユニットごとに分担して作り、利用者もできる方それぞれに手伝ってもらっている。手作りの出来たての料理が、陶器のお皿に美味しく盛り付け、お膳に配置し出されるなど、それぞれの状況に応じた食を楽しむ配慮もなされている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容については、栄養士が管理しているメニューを提供している。食事量・水分量は、記録し把握できるようにしている。ご本人の好みや体調等に合わせて提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。ご本人だけで不十分な場合は、職員が介助している。提携する訪問歯科と連携を図り、年に一度の無料健診を受けている。必要に応じて歯科衛生士による口腔ケアを受けられている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声掛けや誘導を行なっている	行ける方にはトイレでの排泄が促されている。個々の排泄のパターンを把握して、声掛けや誘導がなされている。夜間は歩行が不安定な方には、安全や睡眠確保のためにおむつをしている方もおられる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分摂取量は、都度チェックし記録している。その方に応じた対応で調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や湯温を本人の好みに合わせている。入浴できなかった場合は、翌日再度声掛けしている。また、清拭・足浴・陰部洗浄などは随時実施している。入浴日を自由に選べるところまでは行えていない	事業所には家庭的な浴槽が設置されており、浴槽をまたげる方は介助や見守りを受け、会話も楽しみながらゆっくり入浴、くつろがれている。午前中に週2回から3回は入れるよう調整されている。汚染時は随時入浴等対応がなされている。介助を受けても浴槽がまたげない方は、シャワー浴と足浴を同時に行うことで代替とされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのペースで就寝・臥床・起床して頂いているが、なるべく日中の活動時間を増やし、夜間安眠できるように生活リズムを整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書を個々のファイルで管理し、全職員が把握できるようにしている。与薬時は、ダブルチェックや声出し確認等を徹底し、誤薬防止に努めている。服薬後の空袋チェックを行い、服薬忘れ防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・掃除等、その方が好きなことや得意なことをして頂いている。その時々体調や気分に合わせて、決して無理強いはいないようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画を立て、季節を感じるような催しと外出を行うようにしている。施設周辺の散歩やテラスでの外気浴は、天候や時間帯を考慮しながら随時実施している	年間行事計画を作成し、計画的な外出支援と振り返りがなされている。利用者は季節ごとの外出や行楽に出かけられるよう配慮がなされている。天気の良い日には、近所への散歩やテラスでの日光浴などが行われている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染予防のため、外での買い物はできていない。今後は、「買い物に出かけ、自分で支払いをしたりお釣りの管理をすること」をプランに盛り込み、計画的に実施していきたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、好きな時に連絡を取ることを制限していない。そうでない方も、希望があれば、ご家族と電話で直接話すことができるように支援している。季節の便りをご家族に送るように、支援している。ご本人の申し出時に事務所で電話して頂いている。馴染みのご友人からの手紙や連絡も続いており、順次取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ウッドデッキや畑では季節の花や野菜を育て、ご利用者と共に水やりや手入れを行っている。室内には、天窓から自然光を取り入れている。共用部分には、ご利用者と職員が共同で作成して、季節を感じることが出来るような飾り付けを行っている	自然材料を多用した建物で、木の柔らかな温かさを感じる。天窓からは自然な明かりが差し込み心地よい。リビングは広く仕切りがなく、隣のユニットとは引き戸一枚で行き来が可能となっており、自然な形で交流が行われ、人の営みを感じられる空間となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に好きな場所に座って頂いている。場面に合わせて机の配置も変えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着のあるものを自由に持ち込んで頂き、ご本人にとって居心地の良い空間を作っていただいている	居室入り口の名札は自筆の方が多くみられ、表札を出している感覚が得られる。室内には、愛着のある使い慣れた物や家具、写真などを持ち込み、利用者それぞれが落ち着いて暮らせる空間となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。居室内のベッド・家具の配置は、個々の状況・好みに合わせて配置している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針、部署方針を毎日朝礼時に復唱している。職員は年に1回、理念研修を実施。また、理念を実現するために、年間・半期ごとの職員と一緒に目標設定を行い、毎月面談を実施することで、職員の意識を統一を図っている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を招く、丸亀拠点として開催していた夏祭りは、感染対策の観点から、実施が出来なかったが、ウッドデッキを使ったカフェの開催を予定しており、地域の方々と交流できる場としたい
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、地域の自治会長、民営委員、丸亀市の担当者に出席をしてもらい、意見や助言をもらっている。施設内で、感染等があった場合は、同法人内の別建物を利用して実施できている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事・事故報告・研修報告など運営に関わる内容について、報告を行い、地域の方々の意見をもらい、今後の運営に生かしている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への毎回の参加していただき、意見交換をしている。また、不明な点については、直接連絡をとり、助言をもらっている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、マニュアルの作成・定期的な委員会の開催をしている。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。玄関の施錠は、安全上行なっている。当年において疑義はみられていない
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。当年において疑義は見られていない

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	豊浜拠点において、成年後見制度を利用されるご利用者があり、進め方や内容などを情報共有している
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明をし、理解・納得していただいた上で、同意を得ている。改定あった場合には、その都度文章を用いて説明を行っている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との情報共有を密に行い、普段から意見、要望を聞く機会を持つようになっている。頂いた意見、要望については、委員会や部門別会議等に反映させている。各会議での決定事項は、議事録を回覧して職員間で共有している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月上長との面談を実施しており、問題点も含めて情報の共有をしている。運営に関する意見についても、面談時に集約している
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間目標・半期ごとの目標設定は、職員ごとに設定し、毎月の個人面談にて、個々の業務を把握。その内容で、評価を行い、昇給・賞与に反映させている。また、年に1回、表彰制度を設けるなど、賞賛される場面を大切にしている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や資格取得の支援を行っている。法人の基準書に対する研修があり、ケアの統一を図れるように取り組んでいる。新人は、プリセプターを設定し、3カ月～6カ月で一人立ちできるよう、O-JTとOFF-JTを進めている。また、関わりビデオを実施し、自分の介助方法を映像で残し、確認することで、気付きも増え、他職員の良いところを取り入れるなど、職員の意識向上をすることができている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会にはまだ加入は出来ていないが、法人内でのGH連絡会を開催し、他拠点との情報共有を実施している。くもん学習療法センターによる、活動事例発表会に参加し、他事業所との交流で、意見交換を行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行ない、ご本人との良好な関係づくりから始めている。現状を把握しつつ、ご本人の希望や考えをお聞きし、想いを汲み取る努力をしている。職員間で情報共有を行い、全員が、生活歴、習慣などを知っておくようにしている。その場しのぎにせず申し送りを徹底し統一している
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族との良好な関係づくりを行うように心がけている。ご家族からお話を伺う時間を十分にとり、ご家族の想いを汲み取る努力をしている。入居後はこまめに様子を電話等で伝達している。また、入居2週間後にプランを見直し、困りごとやサービス提供内容の改善を行っている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞いたうえで入居判定会議やカンファレンスを開催し、ご利用者に必要なサービスは何かを見極め、適切なサービスの提供ができるように努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が、互いに教え教わりながら家事や物づくりを行なう中で、家庭的な雰囲気を作ることができている。生活リハビリの観点から家事動作(洗濯・掃除・食事づくり)に積極的に参加して頂いている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対面での面会が制限されている中で、できるだけ顔が見られるように、窓越しの面会や、電話での会話ができる機会を作るなどの工夫を行っている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談して出来る限り、実現できるようにしている。感染対策を十分におこなった上で、病院受診に出かけた際には、自宅のある地域を回るなどの工夫を行っている。ご家族からの電話や来所時の面会等、機会確保をすすめている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係性を把握し、ご利用者同士が良好なコミュニケーションが図れるように支援している。認知症や言語障害により他者との関りが困難な方は職員がこまめな声掛けを積極的に行い、また一対一で関わる事で信頼関係を構築し孤独感を感じさせないように努めて援助している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からお便りを頂くなど、交流を大切にしている。退居した後の様子を伺うために、施設から連絡を入れている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がその人らしく生活できるように、ご利用者の生活歴を把握し、職員間で情報共有できるようにしている。本人の意向を大切にし、想いを汲み取る努力をしている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞き、現在までの生活や暮らし方、家族の中や職場での役割など、これまでに歩んできた人生を知るように努めている。また、ものの好みや嗜好を把握するように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりをご自分のペースで過ごして頂けるように、ご利用者の現在の状態把握に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が自分の担当するご利用者のモニタリングを行っている。ケアカンファレンスを実施して意見交換しながら計画立案を行っている。ご家族とは面会時や電話連絡する機会を通じて情報の交換を行っている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の入力や申し送りの実施により、日々の状態や情報を共有している
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせて、何が必要かその都度話し合いをしている。出来る限り個人に合わせた対応の実現に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の研修参加により得られた情報をご利用者やご家族に伝えることができる様に努力している。今後、カフェを定着させ、地域での認知症の窓口になることを丸亀市担当者からも期待をされている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医の利用を優先的に行なっている。協力病院での受診を希望する場合は、毎月の往診時に情報を共有し、適切に対応ができる様にしている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職種を超えて、報告・連絡・相談をして、適切な対応ができるように努めている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院との情報交換に努めている。退院時のカンファレンスには積極的に参加し、病院関係者との信頼関係を構築するように努めている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明している。又、実際にそのようなことになった場合はご利用者・ご家族の意志を尊重した対応をしている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、各職員が対応できるようにしている。急変時の対応については、実技を取り入れた研修を開催している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、マニュアルの作成・災害時の避難訓練等をしている。県下一斉のシェイクアウト訓練にも参加した。丸亀拠点として、川西自主防災と協力した避難訓練も実施することができている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守るような言葉のかけ方、対応の仕方十分注意している。個浴での入浴や排泄の確認等は他のご利用者に聞こえないよう配慮している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と密にコミュニケーションを図り、日々の関わりの中で、ご自分の考えや想いを自由に表出できるように支援している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、ご利用者のペースで過ごしていただけるように支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、ご本人の好きなように自由にして頂いている。化粧をする方もいれば、カツラを使用している方もいる。入浴時には着替えの用意等、ご本人と一緒に頂いている。好きな服を選んでもらっている。居室から出る際に手鏡とブラシを渡し、身だしなみを整えて頂いている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る範囲で調理・盛り付け・後片づけを行っている。自力摂取が続けられるように食事形態の変更や、視野狭窄に対応するため器の配置に配慮を行っている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容については、栄養士が管理しているメニューを提供している。食事量・水分量は、記録し把握できるようにしている。ご本人の好みや体調等に合わせて提供している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。ご本人だけで不十分な場合は、職員が介助している。提携する訪問歯科と連携を図り、年に一度の無料健診を受けている。必要に応じて歯科衛生士による口腔ケアを受けられている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声掛けや誘導を行なっている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分摂取量は、都度チェックし記録している。その方に応じた対応で調整している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や湯温を本人の好みに合わせている。入浴できなかった場合は、翌日再度声掛けしている。また、清拭・足浴・陰部洗浄などは随時実施している。入浴日を自由に選べるところまでは行えていない
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのペースで就寝・臥床・起床して頂いているが、なるべく日中の活動時間を増やし、夜間安眠できるように生活リズムを整えている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書を個々のファイルで管理し、全職員が把握できるようにしている。与薬時は、ダブルチェックや声出し確認等を徹底し、誤薬防止に努めている。服薬後の空袋チェックを行い、服薬忘れ防止に努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・掃除等、その方が好きなことや得意なことをして頂いている。その時々体調や気分に合わせて、決して無理強いはしないようにしている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画を立て、季節を感じるような催しと外出を行うようにしている。施設周辺の散歩やテラスでの外気浴は、天候や時間帯を考慮しながら随時実施している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染予防のため、外での買い物はできていない。今後は、「買い物に出かけ、自分で支払いをしたりお釣りの管理をすること」をプランに盛り込み、計画的に実施していきたい
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、好きな時に連絡を取ることを制限していない。そうでない方も、希望があれば、ご家族と電話で直接話すことができるように支援している。季節の便りをご家族に送るように、支援している。ご本人の申し出時に事務所で電話して頂いている。馴染みのご友人からの手紙や連絡も続いており、順次取り次いでいる
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ウッドデッキや畑では季節の花や野菜を育て、ご利用者と共に水やりや手入れを行っている。室内には、天窓から自然光を取り入れている。共用部分には、ご利用者と職員が共同で作成して、季節を感じる事が出来るような飾り付けを行っている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に好きな場所に座って頂いている。場面に合わせて机の配置も変えている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着のあるものを自由に持ち込んで頂き、ご本人にとって居心地の良い空間を作っていただいている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。居室内のベッド・家具の配置は、個々の状況・好みに合わせて配置している